広報のあさひ
No.395
'89
10/31

子供たちの夢をのせて「ASAHI自然観」オープン

（10月2日　開村式で和合太鼓を披露してくれた子供たち）

高らかに和合太鼓で旅行村の開村祝う

朝日山麓家族旅行村「朝日自然観」のオープンを告げる開村式が十月二日、新装なったホテル自然観前広場で開かれました。

式典には、町内の機関や団体の代表、地元住民などをはじめ工事関係者やホテル関係者、報道機関など三百五十名あまりが出席。来賓として運輸省や農林水産省の係官、国、県の議会関係者など多数の方々を迎えて盛大に開催されました。

会場のホテル前広場には五張の大型テントを設置。あいにくの肌寒い天候ながらも時折青空がのぞくまずまずの天気。清野収入役の開式の辞のあと、式辞に立った小林町長は「二十一世紀を展望して、豊かな自然と地域の資源を生かした朝日町の産業おこしのため、自然志向、健康志向などの国民的ニーズに応えた通年型リゾート〝朝日自然観〟を開設した。関係各位のご尽力に感謝すると共に、町の活性化のため町民一丸となって成功を期していきたい」と述べました。

次いで熊坂助役は、昭和六十年に運輸省の補助事業「家族旅行村整備事業」着手いらい今日までの事業経過について報告。そのあと土地提供者や設計、施行業者、開村に伴う功労者など自然観建設に貢献された多数の方々に町長から感謝状が贈られました。

来賓祝辞のあと、小林町長、高橋副知事、運輸省の本多新潟運輸局長、鹿野農林水産大臣（代理）の手で、ホテル自然観前でテープカット。同時に千個の風船が放たれ天高く舞い上り、和合小の子供たちによる力強い和合太鼓の音が、澄みきった空気と色づき初めた朝

オープン!! イベント開催

21世紀をめざした町づくりの新たな起爆剤となる朝日自然観が華やかにオープン、一連の記念イベントが盛大に開かれました。いま、さわやかな秋晴れのもと、家族づれや団体客などが紅葉で彩られた自然観を次々と訪れ、連日にぎわいを見せています。

今月は、喜びあふれたオープン記念イベントのもようを中心に特集します。

茶道部のメンバーによる心温まる野だてが大好評

スキー場管理組合など功労者へ感謝状が贈られた

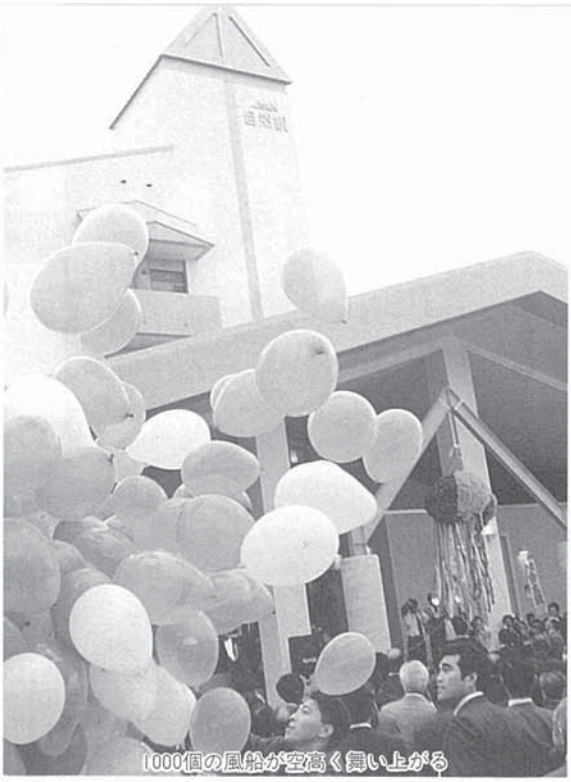
朝日山麓家族旅行村

Asahi自然観

待望のグランド

盛大に記念

高橋副知事、小林町長らの手でテープカット



1000個の風船が空高く舞い上がる

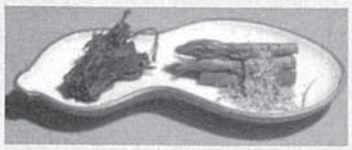
日の山並にこだましました。

レストラン〝スジェール〟に会場を移して開かれた祝賀会は、オープンめざして研修を積み重ねてきた調理スタッフたちの腕による洋風パーティー。七月に発売以来、好評の〝清酒自然観〟の鏡割りやこの日新発売の〝自然観ワイン〟が祝賀に彩りをそえ、ロビーや玄関まであふれる盛況となりました。

また、開村式に訪れた参加者たちを心からもてなそうと芸文協茶道部と華道部が野だてと生け花を提供。近代的な白いホテルと緑の芝生や広葉樹林、赤い毛氈が絶妙の雰囲気をかもし出すなか、心温まるもてなしが肌寒い参加者たちを大きくつつみこみました。

山里まつり

●自然観の味を提供



オープン記念行事が催された10月2日から15日までの2週間の来村者数はのべ約1万人。イベント開催に合わせて開かれた「山里まつり」では自然観ならではの味を提供。町の農林産物を使った郷土料理や土産品、オリジナルグッズなど多彩なメニューに人気が集まりました。

勇壮な和合太鼓がオープンを祝う

沢田聖子 Fresh in Asahi

野外コンサート開催

さわやかな歌声が自然観のエリアいっぱいに

一流アーチストを招き、朝日自然観を広く県内外にPRしようと十月七日、自然観野外ステージで「沢田聖子フレッシュ・イン・アサヒ」オープンコンサートが開かれました。

このコンサートは、四月に実行委員会を結成して以来、度重なる打ち合わせの末、「卒業」「シオン」でおなじみのシンガーソングライター「沢田聖子」に決定。その後、青年団や若者サークル、町各機関等から六十名余りを実行委員に委嘱。

〝誘客宣伝部〟は、ポスターやマスコミ等での宣伝のほか、プレゼント付き入場整理券を頒布。道路や駐車場の心配が絶えない〝交通警備部〟は、安全協会や、警察署などの協力を得て万全の備え。広いステージをどう設定するか、何度も現場に足を運んだ〝会場管理部〟と、それぞれが知恵と力を出し合い、若者の住みたくなる町のイメージアップに—と取り組みました。

当日は、今にも雨が落ちてきそうな曇り空、寒さに体が震えたものの約七百名の観客たちは、木立の中に澄み渡る爽やかな歌声に心はポカポカ。実行委員は今回の成功を機に、今後のイベント開催の意欲に燃えています。

健康ウォークで心と体をリフレッシュ

スポーツフェスティバルのトップは「健康ウォーク」。〝自然観〟の目玉の一つでもあるブナやナラの広葉樹林を家族でゆっくり歩きながら、森林浴とラリーを楽しんでもらおうという企画。

10月8日はオープン後初の日曜日、しかも秋晴れのウォーク日和とあって出足は好調。コースは参加者の体力に合わせ4キロと8キロを歩くA・B2コース。8キロコースは、展望台からサイズチ峰までの尾根づたいでランチタイム付き。チェックポイントをしり目にきのこ取りに夢中になったり、ブナ原生林でオーバータイムになったりとハプニング続出。「朝日町にこんなすばらしい所があるなんて—」サイズチ峰展望台での一同のことばに、主催者はすっかり満足。

展望台からちょっと足をのばすと森林浴エリア

アップル町民駅伝大会
沢内Aが3連覇

体育の日の10月10日、町内49.5㎞のコースで健脚を競いあった第6回アップル町民駅伝大会。今年は各地区代表14チームが出場。オープン記念として応援旗のコンテストを行うなど、華やかさも一段とアップ。大会は、総合力で勝る沢内Aが和合の追い上げをかわして3連覇をかざりました。

《成績》　①沢内A　②和合　③大谷風神　④大暮山・大沼　⑤三中　⑥上郷　⑦玉ノ井　⑧沢内B　⑨西町　⑩太郎・立木　⑪宮宿　⑫常盤　⑬松程・大舟木・今平　⑭四ノ沢

遠く関東地方から足を運んだファンなど700人の観客を魅了

第1区走者の小学生をスタートに世代リレー

交通整備の皆さんもひと苦労

陰で支えた
スタッフたちの力は大きい

区間賞受賞者

区　　間	区間賞受賞者
1区（スタート中央公前～商店街～中央公・1.7km・小学男）	長岡　友久（大暮山大沼）
2区（～上郷小学校・3.3km・青年男）	海野　洋一（三　　中）
3区（～杉　　山・3.3km・青年男）	白田　隆彦（和　　合）
4区（～大舟木公民館・2.2km・高校女）	長岡真紀子（常　　盤）
5区（～松　　程・3.3km・青年男）	阿部　義春（沢　内　A）
6区（～高齢者セ・3.2km・壮　年）	鈴木　利和（大　舟　木）
7区（～立木バス停・2.0km・小学男）	長岡　和久（大　暮　山）
8区（～西部公民館・3.9km・青年男）	川村　　尋（大　　谷）
9区（～西舟渡バス停・2.0km・中学女）	長岡　真紀（宮　　宿）
10区（～元　能　中・3.0km・青年男）	長岡　利幸（上　　郷）
11区（～石切り場・3.5km・壮　年）	菅井　恒好（和　　合）
12区（～北部公民館・1.2km・青年女）	松田　千鶴（太郎立本）
13区（～真中公民館・4.2km・青年男）	白田　信一（大　　谷）
14区（～舟渡公民館・1.3km・小学女）	清野　礼子（沢　内　B）
15区（～和合警備所・2.6km・中学男）	鈴木　伸治（和　　合）
16区（～送橋集荷所・4.0km・高校男）	鈴木　幸喜（三　　中）
17区（～中央公ゴール・4.8km・青年男）	菅井　繁美（和　　合）

さぁっそうとスタート

楽しいランチタイム

フィリピン　日本

アブカイ町 & 朝日町

「友好の町」を宣言

日比国際交流シンポジウムも開催
交流の輪さらに大きく

国際結婚を縁として昭和六十年から交流を続けている、フィリピン共和国アブカイ町とわが町が「友好の町」としてさらに国際交流の輪を広げようと、十月十二日ホテル自然観で「友好の町宣言式典」を開きました。この式典にはデラフォンテ・アブカイ町長、花嫁たちの家族ら一行十五名のほか、フィリピン大使館、法務省仙台入国管理局、日比・比日友好協会長ら多数の来賓が出席。両町長による「友好の町」宣言や記念品交換、祝賀パーティなどを行い、今後いっそうの交流促進を確認しました。

また、前日から二日間にわたり「国際交流シンポジウム」を開催。町内外から集った三百名をこす参加者たちと日比結婚について話し合いを行いました。

		朝日町 (Asahi-machi)	アブカイ町 (Abucay-town)
町の創立(DATE ORGANIZED)		1954. 11. 1	1587.
面　積(LAND AREA)		196.91 ㎢	79.7 ㎢
人　口 (POPULATION)		10.847 人 (1989)	26.766 person (1988)
人口密度(POPULAT density)		57 人／㎢	335 person／㎢
世　帯(House holds)		2,593 世帯	3.974
土地利用 (LAND USES)	宅地(Residential)	234 *ha*	70.0 hectares
	田 (Riceland)	872	1,805
	畑 (Farm)	1,560 (Apple 550)	568.4
	草地(Grassland)	793 (原野)	1,782.4
	山林(Forests)	16,086	1,166.5
	その他 (Others)	146	2,577.7
主な生産物 (Principal Products)		りんご(apple)・ワイン(wine) 肉牛(beef cow)・家具(furniture) ニット(knitting)・ハチミツ(honey)	米 (Rice)・魚 (Fish) すいか(water melon) エビ(bagoong)・ほうき(brooms)

▲イベント広場の広い空間を使った熱気球体験飛行に人気集中

大きな自然の大きな教室

ビッグな自然を丸ごと体験

「朝日自然観」のビッグな自然を丸ごと体験してもらう「大きな自然の大きな教室」が、10月14・15日の２日間にわたって開かれました。

イベント広場では、熱気球の体験飛行やイガグリ投げ大会、きのこ展や菌打ち体験、丸太切り大会、さらにブナ原生林を歩く宝さがしなど多彩な催しに人気が集中。コメ消費拡大のモチつき大会では１俵半のモチをペロリ。参加者には天然のマイタケやナメコなどのほか、自然観の焼印を押した丸太の特製コースターをプレゼント。ＹＢＣ特別番組の生中継もあり約3,000人の人出でにぎわいました。

宣言文を読み上げるデラフォンテ、小林両町長

宣　言　書

日本国山形県朝日町とフィリピン共和国バターン州アブカイ町は、両町間の相互理解と友好を深め、日比両国の親善と友誼を促進するため、次の事項に関し、「友好の町」としての関係を、より深めるよう努力することを宣言する。

1．両町の生活・文化・教育・産業等を、より正しく理解しあうための情報の交換。

2．両町の相互理解と友好促進をはかるための親善相互訪問等。

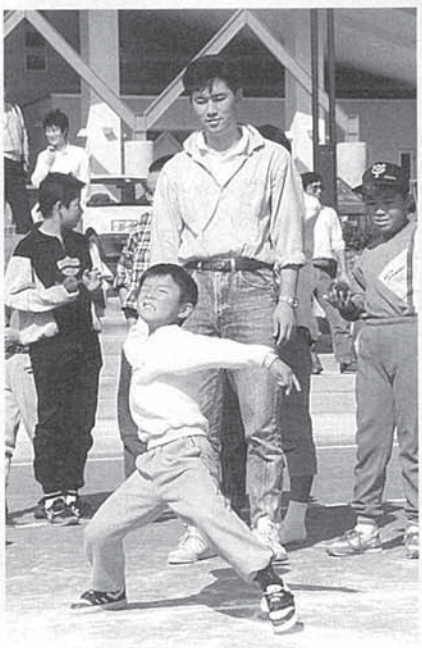
1989年10月12日

Mayor of Abucay
Hon. Vicente C. dela fuente
Bataan of the Philippine

日本国山形県朝日町
町長　小林富蔵

●主な経過

1985年9月～10月 (Sep.) (Oct.)	フィリピンアブガイ町より4人の花嫁が来町。10月、結婚披露宴にアブカイ町長マキシマ・デラフォンテ氏（現町長の母）が来町。
'86．4 (Apr.)	2組が結婚。結婚式出席のため、小林町長、佐竹議長が訪比。
9 (Sep.)	3組が結婚。熊坂助役らが訪比。
'87．11 (Nov.)	第1陣が里帰り。翌年2月、第2陣が里帰り。
'88．6 (Jun.)	パリシュ教会創立400年記念式典に朝日町より町長、議長出席。
'89．10 (Oct.)	ビセント・デラフォンテ町長一行15名が来町。日比国際交流シンポジウム及び「友好の町」宣言式典を開催。



▶ギネスに挑戦〝イガグリ投げ大会〟32メートル珍記録

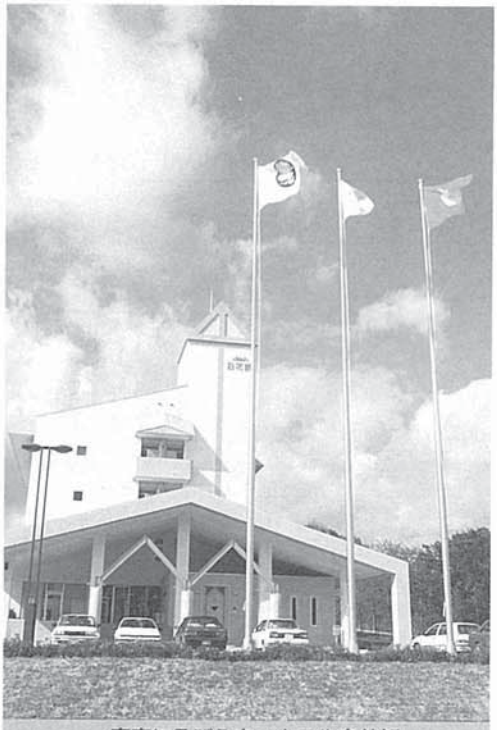
▲しめじの会の協力を得てきのこの展示と相談コーナーも

◀菌打ち体験のあと、ほだ木をプレゼント

Asahi自然観

ご案内

「朝日自然観」の拠点施設である、待望の「ホテル自然観」が十月五日にオープン。同施設は町直営の宿泊施設で、宿泊定員は五十一人。総工費約四億六千万円を投じて建設され、鉄筋コンクリート地下一階、地上四階建て。外観全体を白色に統一した、まさに〝白亜の殿堂〟。朝日町の二十一世紀を創造する〝むらおこしのシンボルタワー〟として、大きな期待が寄せられています。



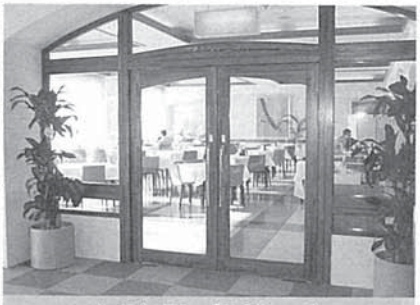
青空にそびえ立つホテル自然観

屋内インフォメーション板

吹きぬけ天上のフロア

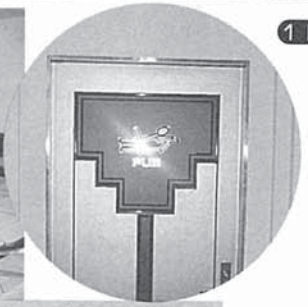
金文字をあしらったフロント

フランス料理のフルコースをどうぞ



レストラン「スジェール」

フロア待合室



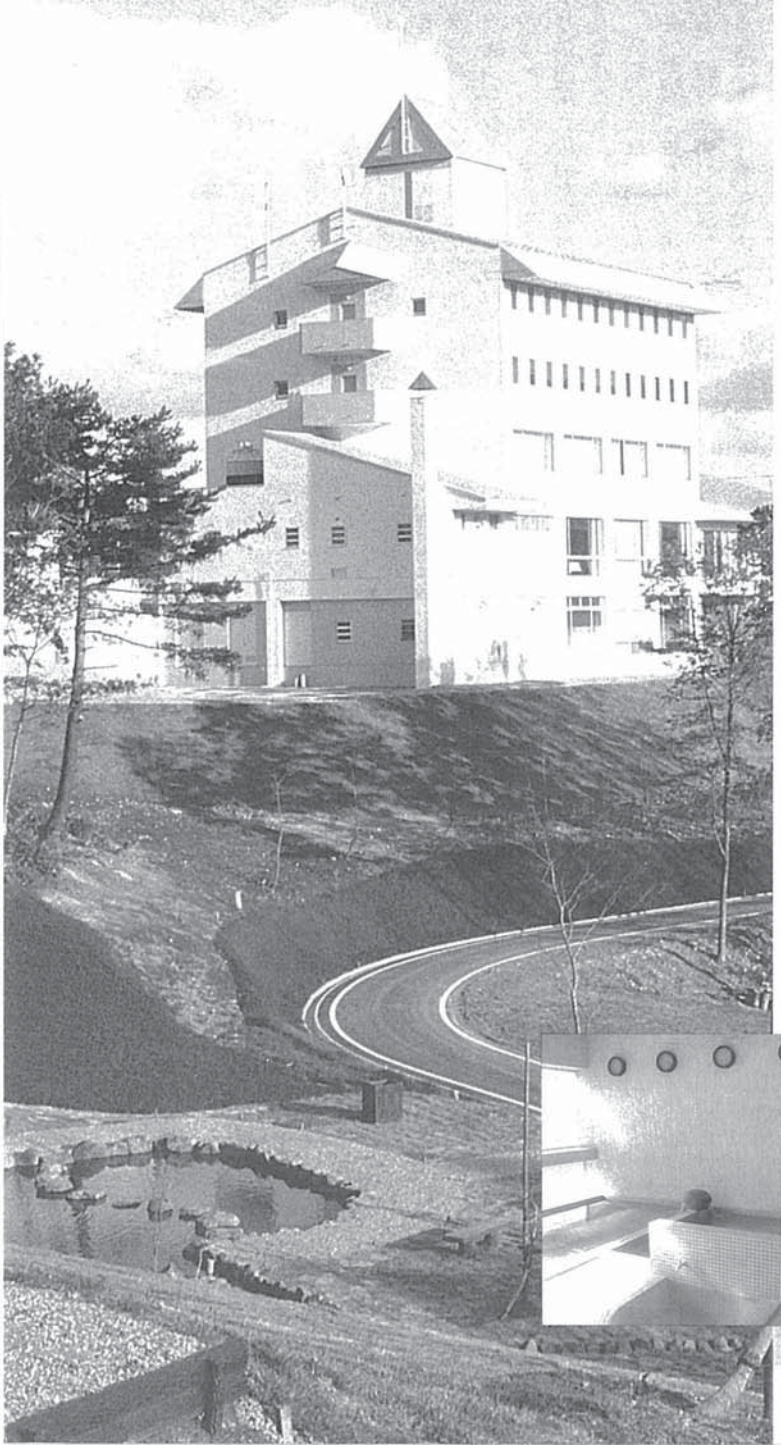
ご宴会のつづきはパブ「ヨピテ」でどうぞ

機能的な厨房

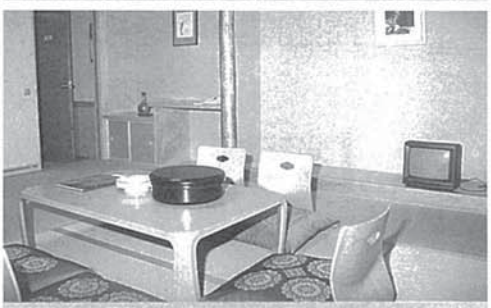
カメラあんぐる

白亜の殿堂

ホテル自然観の



4F 洋室の客室が9室、定員27人



3F 和室の客室が6室、定員24人

2F ご宴会用の82畳の大広間

B1 脱衣所とサウナのある浴室

板垣県政、5選を果す

町の投票率 81.42%

●県知事選挙の結果

第1投票所にて

県知事選挙の投票が十月八日の日曜日、町内二十の投票所で行われました。

選挙は保守、革新の一騎打ちながらも、五選をめざす板垣陣営の優勢が伝えられて全体的な盛り上がりがもうひとつ。朝日町の投票率は八一・四二%と七月の参院選挙の投票率より六%下回ったものの、県平均の六〇・一四%を大きく上回り県内第五位の高い投票率となりました。

開票は午後七時半から中央公民館で行われ、開始直後、板垣候補の当確が伝えられる中で作業が進められ表2の結果となりました。

●朝日町における投票結果

区分	有権者数	投票者数	投票率(%)
男	4,028	3,222	79.99
女	4,208	3,484	82.79
計	8,236	6,706	81.42

●朝日町における開票結果

投票総数	6,706
候補者得票数	6,636
板垣清一郎（無所属）	5,589
毛利　健治（無所属）	1,047
無効投票数	70

優良納税の町として 県知事表彰

20年連続、99%の高収納率 町民の納税意義の高さ反映

今年度から新たに設けられた優良納税市町村の表彰式が9月7日、県庁で行われ、個人県民税収納率99%以上を20年以上達成した町として、県内4市町村とともに県知事から表彰されました。

税の収納率は住民の納税意識を反映するもので、区を単位とする納税組合の活動と町民の納税意識の高さが今回の受賞に結びついたものです。

今後も、納税へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

毎月の納税組合の活動風景（大谷五）

能中公民館の新築工事始まる

「水力発電地域交付金」を活用 玄関入り口にスロープも整備

能中公民館の完成予想図

「生涯学習推進の町」づくりの身近な拠点施設としての、自治公民館（区の公民館）の整備改築が年々進められるなか、このほど老朽化が目立っていた能中公民館（五十二戸）の新築工事が始まりました。工期は十二月十五日まで。

同施設は国の「水力発電施設周辺地域交付金」の補助を活用して建設されるもので木造平屋建て、床面積一九七・九平方メートル。内部は四十二畳の集会用大広間のほか小会議室二室と調理室などを整備。また、玄関入り口には足の不自由な方のためのスロープ（ゆるやかな歩道）が整備されるなど、利便性を重視したものとなっています。

「Asahi自然観」の教育的活用を話し合う

第4回教育懇談会

教育功労表彰を受けられたみなさん

教育委員会が主催する第四回教育懇談会が九月二十八日、中央公民館で開かれました。懇談会には町立学校長や連合婦人会などの各団体代表者三十人が出席。このほどオープンした家族旅行村「朝日自然観」の教育的利用をテーマに話し合われました。

同施設にはキャンプ場や農林産物の栽培施設などが整備され、青少年の野外活動や集団学習での活用が望まれています。懇談会では特に、教育的活用をはかる上で、子供たちの関心を高める動的活動を含めた活用プログラムづくりが課題として上げられました。

教育功労者として 九名三団体を表彰

また、懇談会終了後、同会場内で教育功労者表彰式が行われ、次の九名の方々と三つの団体が教育委員会から表彰されました。

学校教育功労

●大江町　井上宗太郎(60)
教員歴41年。その間、長年にわたり町立学校に勤務し小・中学校長を歴任、学校経営はもとより地域文化の向上と教育の振興に貢献。

●常盤　稲村　幸子(59)
教員歴37年。その間、長年にわたり町立学校に勤務し児童生徒の教育はもとより地域文化の向上と教育の振興に貢献。

●町立宮宿小学校ＰＴＡ
昭和23年以来、継続して実施している「かぼちゃ運動会」を通じ、地域の教育振興と子供たちの自信と誇りを培うことに貢献。

●新宿　熊谷　武四(69)
長年にわたり宮宿小学校の伝統行事である「かぼちゃ運動会」に、丹精込めて栽培したシンボルのかぼちゃを提供、その栽培方法も指導するなど、子供たちの人間形成に大きく貢献。

●宿　菅井　邦松(76)
昭和45年以来、和合小学校の学校園及び垣根のせん定等の奉仕活動を続けられ、教育環境の整備に貢献。

●松程　布施栄五郎(46)
昭和59年以来5年間にわたり西五百川小学校ＰＴＡ会長、副会長を歴任し、地域の教育振興とグラウンド建設に貢献。

●町立西五百川小学校
教職員が一丸となって国語科指導の実践的研究に取り組み、音読で表現力を養うなどその成果が認められ博報賞を受賞、国語教育の振興に貢献。

社会教育功労

●大町　鈴木　綾子(63)
昭和60年以来4年にわたり町連合婦人会副会長を歴任し、地域文化の向上と生涯学習の推進に貢献。

●宇津野　加藤　正彦(28)
昭和61年以来3年間にわたり町連合青年団長、副団長を歴任し、数々の事業を展開すると共に青年の意識向上に貢献。

芸術文化功労

●大谷獅子踊り保存会
伝承する踊り手が不足し、解消寸前の大谷獅子踊りを再建、第30回北海道・東北ブロック民俗芸能大会に山形県代表として出演するなど、その保存伝承に貢献。

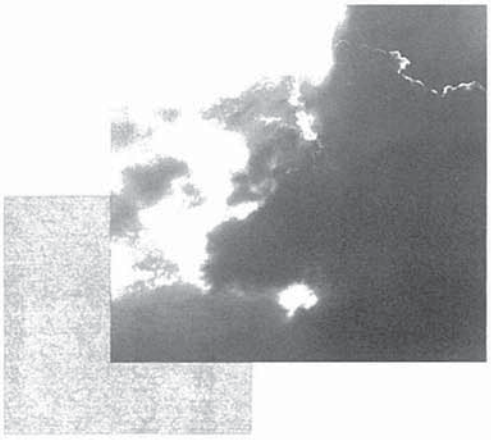
社会体育功労

●古槙　清野　忠市(41)
昭和54年以来、送橋剣道スポーツ少年団の指導者として子供たちの健全育成と競技力向上に努め、社会体育の振興発展に貢献。

●下芦沢　渡辺　定男(31)
昭和54年以来、送橋剣道スポーツ少年団の指導者として子供たちの健全育成と競技力向上に努め、社会体育の振興に貢献。

夕雲の彼方に——

少年の日の思い出



私が父に連れられ、中学校のとある郡大会の応援に行ったのは、小学六年の六月のことでした。

寒河江まで三十分。車の中の私は、遠く小高い丘の上に建つ高校の、校舎の影をガラス越しに見上げていました。

校舎の裏手の球場では、野球の試合が始まっていました。

私は応援席の方へ、父の後から付いて行きました。暫く応援していると、父は「仕事の用で行って来るがまだ試合を見てるか」と尋ねました。「うん」とうなずいた私に「三十分たったら戻って来るから、ここで待ってなさい」と言い残し、出かけて行きました。

回が進み、試合も終わりに近づいた頃、私はふと辺りを見回し、まだ来ないのだろうかと父の姿を捜してみました。わが方に敗色が濃くなり、それにつれて、私もだんだんそわそわし始めてきました。結局試合は敗れ、ぞろぞろ移動を始めた生徒の方に視線を送りながら、父の姿を捜していました。

「いったいどうしたんだろう」

人影もまばらになり、一人取り残されそうになった私は、立ち上がり、皆の後に付いて行くしかありません。

「三十分たったら戻って来るから、ここで待ってなさい」

父の言葉が頭の中でこだまします。

「ちぇっ、もうとっくに三十分以上もたってしまったじゃないか」

私はぶつぶつひとり言を言いながら、道端の小石をけっていました。

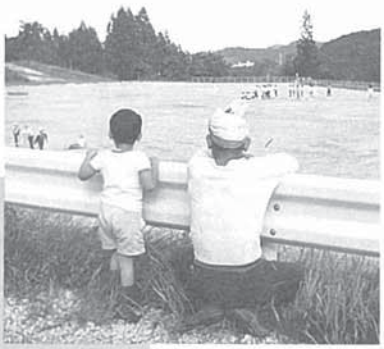
生徒たちは、校舎前に待っていたバスに乗り始め、私は少し離れた道端に立ち尽くし、彼らが乗り込む姿を眺めていました。

「ぼくも中学生なら、一緒に乗って行けたのに」

消えて行くバスを見送りながら、ふと、皆から疎外されたような孤独感におそわれ、目だたないようにして丘の上に腰を下ろしたのです。

ところどころ切れかかった初夏の雲のすき間から、夕日がよわく差し込み、西の空は茜色に染まっていました。夕日を背にしたまわりの山々は、遠くおぼろにかすみ、丘の上から見下ろした道には、次第に車の数が増し、時々思い出したように赤いライトを燈し、消えては去り、去っては消えて行きました。どの車も、みんな家路に急いでいるの

みんなの教育



かもしれない。そう思うと急に一人ぼっちになってしまった心細さがつのり、思わず駆け出して行きたい想いに駆られるのでした。

「この道を、どこまでもどこまでも歩いてったら、家に着くんだ」

夕日の下弦が、遠く山々の稜線に触れました。「この太陽が沈むまで、来なかったら行ってしまおう」

下弦が沈み、半分まで落ち、そしてとうとう、最後の一筋が山の向こうに姿を消してしまいました。私は立ち上がり、ズボンの砂をはたいて辺りを見回したけれど、そこにはまだ父の姿はありませんでした。

「確か駅前に交番があったはずだ。とにかくそこへ行ってみよう」

なぜか私は、人通りの少ない神社の裏道を歩いていました。神社を覆う大きな木々の後ろから、誰かじっと見ているような、また、大きな木立の闇の中から、腕がぬっと飛びだして、私の体をわしづかみにしてしまいそうな気がしてなりませんでした。

道端にぽつんと小さな明かり。それは人のいない公衆電話でした。「どうして、こんな時に限って、十円玉の一枚も持ってこなかったんだろう」

空っぽのポケットをさぐり、悔しいやら自分に腹が立ってなりませんでした。辺りの地面に目を光らせた私の期待もむなしく、何も落ちてはいませんでした。振り向いた目に映った公衆電話はわれ関せずと静かに立っていました。そんな公衆電話を恨んでも仕方がないのです。

交差点で、信号待ちをしていると、向こうの方から、バスがやって来ました。それは私の町へ行くバスで、ふと見上げると窓ぎわに、近所のおばあさんが乗っていました。何も知らないバスは、交差点を左に曲がり、大きな排気音をたてながらそのまま走り去ってしまいました。上げかけた腕は力を失い、私は小さく口を開けたままぼんやりバスの後ろ姿を見送っていました。

絶望と心細さの交差するなか、とぼとぼと歩き続ける私の姿は、ショーウィンドウの光をうけ、ゆらゆら動めく小さな影となって、夕暮れの街に漂っていました。

交番に着いたとたん、私の瞳は涙であふれてしまいました。止めようとしても次から次へと涙があふれ、顔じゅう涙でぐちゃぐちゃになってしまうのです。「なんだって、涙なんか出てくるんだ」それでもなお、涙があふれて止まらなかったのです。

少年の日の思い出は、遠い影となって今も私のまぶたに浮かんで来ます。夕ぐれの彼方を見つめる私の瞳には、今も昔も変わらないあたたかな故郷の風景が映し出されているのです。

教育広報委員
鈴木浩幸

ひろば

朝日自然観へ、縁起もののかめバチの巣をプレゼント

提供いただいた佐竹さん

ご覧のかめバチの巣は、高田の佐竹昭一さん（62）から「朝日自然観」の開村お祝いにと町に寄贈いただいたものです。ハチがわくように、自然観もお客様でにぎわうようにとの願いが込められており、町ではさっそく「ホテル自然観」内に飾って、お金もいっしょに湧いてくれればと、縁起もののめずらしいプレゼントに期待を寄せています。

マイタケが裏庭のクリの古株にニョキ

実りの秋を迎え、キノコ狩りの愛好者にとって山野は魅惑いっぱい。なかでもマツタケとマイタケはあこがれのまと。そんな思いを横目に夏草の林清光さん（68）方では、裏庭のクリの木の古株に、ひとかかえほどのマイタケが顔を出しました。

林さん方のマイタケ

林さん方では昨年も、裏庭の赤スモモの木の根元から収穫しており、毎年、うらやましい話題となっています。

ミョウガに真っ赤な花？が咲きましたよ

ふしぎなミョウガの“花”

「ミョウガ」ってご存じですか。この辺でよく味噌汁の実にして食べますが、季節によって「夏ミョウガ」「秋ミョウガ」があるそうです。そのミョウガに「真っ赤な花が咲いた」という話題を町内の数人の方からお寄せいただきました。カラー写真でお見せできないのが残念ですが、ご年配の方も「初めて見た」ということで、このところの異常気象のせいでは、と不思議がっています。

ぼくのおばあさん

宿　菅井　正貴くん（和合小一年）
弟　敦史くん（4歳）
おばあさん　菅井きよゑさん（57歳）

ぼくのおばあさんは、こうば（製材業）にてつだいにいったり、とてもげんきです。としは57さいです。

おばあさんは、はやおきして、ぜんまい、わらび、きのこなどをとりにいきます。とても山がすきなんだなあとおもいます。

ぼくのことをしんぱいしてくれたり、おかしをかってくれたり、にこにこしているおばあさんが、大すきです。

こんど、としやにいちゃん（おじさん）がけっこんするので、さびしくなるけど、ぼくとあつしがいます。てつだいもするから、いつまでもながいきしてください。

町民の

隣のリンゴ家族

堀ひのき　(10)

ひとことトーク

よみがえった読書習慣
人生の楽しみ、再発見

大谷七
村山きのさん(74歳)

「おばあちゃん、はい」と言って、嫁が一冊の本を入院中の私の枕元に置いてくれました。その時から、私は若かりし頃の読書娘によみがえったのです。

本の題名は「春日局」という本でした。入院前、テレビ番組を夢中で見ていたせいか、本を読んでも非常に新鮮に感じられました。

これを契機として、私は新聞の小説とか文庫本を読むのが楽しみの一つになりました。農作業の合間や寝る前に熱中するようになりました。今、読書の楽しみを新たにし、人生のすばらしさを満喫しています。

雪谷の鈴木さんが最優秀賞を獲得

●SMM杯牛枝肉共進会

九月五日に仙台市で開かれた、みちのく県別対抗SMM杯（仙台中央食肉卸売市場杯）争奪牛枝肉共進会で、雪谷の鈴木春雄さん（49）が乳用種の部で最優秀賞を獲得しました。

この共進会は、肉牛主産地に位置づけられている東北地方の、生産の安定・発展を図ることを目的として全農・全畜連の共催で三年前から開かれているもの。

今年は百八十頭が出品。同部門で、常盤の斎藤興治さん（46）も優秀賞に入賞するなど、出品三頭のうち二頭が入賞、市場に「朝日牛」の名を高めた大会となりました。

牛の世話に精を出す鈴木さん

「町民のひろば」からお・ね・が・い

この「ひろば」は、町民みんなで作るページです。小さくてもホットな話題、意見、イラストなどお気軽にお寄せください。すてきな情報、おもしろ情報、まってまーす。

●町の広報委員か役場企画広報係へ

ワイン2千リットル 牛肉3頭分をペロリ

2千人が“食欲の秋”を満喫 第10回朝日町ワインまつり

第十回朝日町ワインまつりが九月二十三日、上郷ダム公園で開かれました。

当日は、開場直前に雨が降りだして主催者側をやきもきさせましたが、みんなの願いが通じ間もなく薄日の差す絶好のまつり日和となり、和合太鼓の元気な響きで開宴。

県内外二千人を越える来場者は、ワイン娘との自作ワインぶどう踏みの競演やワインカクテル早飲み競争などのアトラクションを楽しみながら、新酒の白をはじめ赤、ロゼワイン二千リットルと、朝日牛三頭分の約七百キロの牛肉に舌づつみ。

仙台市から来たという女性は「ワインがこんなにおいしいとは知らなかった。肉も最高。来年もぜひ来てみたい」と、ワインの里の秋を満喫していました。

ワイン娘によるぶどう踏み

カンパーイ！会場はワインファンでいっぱい

大沼チーム3度目の優勝

川通 親子バッテリーも登場

●北部親善ソフト

10月1日、秋晴れの下、第1回北部地区親善ソフトボール大会が秋葉山グラウンドで開かれました。

大会には18チームが参加。昨年度優勝の川通は、余裕の2チーム参加。うち1チームは親子選手による編成で、親子のバッテリーも登場し息の合ったところを披露しました。

試合結果は、大沼チームが準決勝で逆転勝ちするなど実力を発揮し、三度目の優勝に輝きました。準優勝は大谷五A、第3位は大谷六の各チームでした。

息の合った川通の親子チーム

用具・賞品すべてカボチャ

●宮宿小で「かぼちゃ運動会」

物資の不足した終戦後の昭和二十三年からはじまったという宮宿小学校の伝統「かぼちゃ運動会」が九月十七日、同校グラウンドで開かれました。

当日は秋晴れの運動会日和に恵まれ、児童と父兄らはカボチャを競技に取り入れた「カボチャころがし」など七種目に挑戦。賞品の方もすべてカボチャとあって、カボチャの大きさを見分けるのに係員も一苦労？

「カボチャのお引っ越し」競技

長寿をリードする村山さん

2世紀人生へスタート

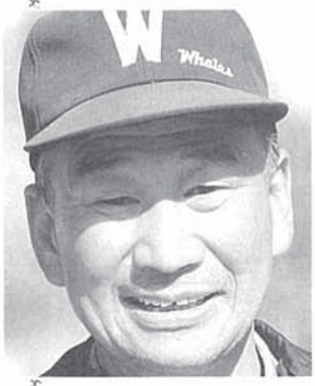
宇津野の村山はつゑさんに総理大臣から長寿のお祝い

明治22年5月5日生まれの、町一番の長寿を誇る宇津野の村山はつゑさんは、めでたく今年で満100歳。9月26日、森谷知美・西村山地方事務所長と小林町長が村山さん方を訪れ、内閣総理大臣からの賀詞と記念品を伝達。合わせて町社会福祉協議会から、東の正横綱に名前が記された長寿番付表を贈り、長寿をお祝いしました。

村山さんは、県内の長寿番付では20番目。高齢のため耳が遠いものの、なおかくしゃくとした毎日を過ごされており、長寿の町の主役として記録を更新中です。

今月の顔

「自然観の大根」が大人気
〝朝日実験村〟の農園班長



白倉 阿部 恵治さん(56歳)

「朝日自然観」のオープン行事期間中、青空市で人気を博したのが「自然観の大根」などの農林産物。これらの供給元が施設部農園班である。前にもお知らせしたとおり、施設内には七haの農用地が造成され「農林産物の生産・加工・販売の施設」という一面をもつ。

現在、農園班には阿部さんほか四人の農業エキスパートの人たちが務め、畑仕事のほか、施設の「身の回り」仕事にあたっている。農地には野菜類三十数種、また、ゆくゆくは町の花「ヒメサユリ」の楽園にと二十数種の花ユリを試験栽培。地元出身の阿部さんも「水の便と陽当りに恵まれ、こんなにいい農地に変わるとは思わなかった」と語る。

二十五年間の出稼ぎ生活から「好きな百姓仕事」とした選んだ〝自然観人生〟。自然観は農林業に観光をプラスした〝むらおこし実験村〟とも言え、裏方としての阿部さんらの豊富な経験に期待が寄せられている。

アフリカからのメッセンジャー

エチオピア青年二名が来訪
地球の仲間として情報交流

地球の裏側、アフリカのエチオピアから十月四日、エシャトウ・スプティーマさん(28)とダニエル・アビチュウさん(28)という二名の青年が町を訪れました。

彼らは母国の「マーシャ村」で保健指導や植林を中心とした緑化推進にたずさわるリーダーたち。アフリカの飢餓や森林資源の枯渇を訴えるため日本国際ボランティアセンターの招きで来日。日本の農村地域の現状を視察のため、山形で支援活動をしている「トリー・フォー・ライフの会」(武田節子代表)の紹介で来町したもの。

当日は保育園や町内の企業、朝日自然観などの施設を見学したあと、朝日ロータリークラブや町内青年の代表との懇談会に出席。ともに地球に生きる仲間として、自然環境の保全問題についての情報交換と相互理解を深め合いました。

地球儀を出して子供たちにエチオピアを紹介

苦難乗りこえ〝二人三脚〟半世紀

おしどり夫婦の五十年を祝う――●金婚祝賀会

めでたく平成元年に金婚式を迎えたみなさん

十月四日、いもがわ温泉を会場に、結婚生活五十年を祝う金婚祝賀会が開かれました。参加者は昭和十五年に結婚された三十二組のおしどり夫婦。それぞれ苦難の時代に新婚生活を過ごされたとあって、一緒に隣に座り記念写真を撮る姿には、とりわけご夫婦の仲の良さがうかがわれました。

祝賀会では、はじめに小林町長から賀詞と記念品が贈られ、本町の安達寅太さん（73）が「戦争のない平成時代を迎え、あらためて結婚当時の苦労をなつかしく思い出すことができるようになりました。これからも健康に気をつけて夫婦仲良く頑張ります」と参加者を代表して謝辞。そのあと祝宴に入り、歌や踊りに楽しい一日を過ごしました。

ぼくたちの〝園歌〟だよ

ふたば保育園に歌のプレゼント

風さん（一番）
風さんがぼくに話しかけてくるよ
ぼくは風さんが大好きなんです
ぼくの小さな夢を
風さんの背中に乗せて
どこまでも遠くへ飛んでいきたいよ
風さん、ぼくの風さん
さわやかな風さん
風さん、ぼくの風さん
ありがとう風さん

ふたば幼稚園に〝園歌〟ができました。タイトルは「風さん」。園新築十年の記念にと、父母の会が歌声グループ「あめっかぜ」のリーダー、長沼の松田昌弘さんに作詞・作曲を依頼していたもので、九月二十四日の運動会当日、園児たちが元気な声で発表しました。

すばらしい詩吟に陶酔

「九重流」詩吟発表会開く

十月一日、農業団地センターを会場に「九重流」詩吟発表会が行われました。

この発表会は、朝日自然観のオープンを記念し、合わせて県芸術祭参加事業として開かれたもので、地元をはじめ山形市や大江町から佐藤旭洲氏の門下生ら百二十人が出演、すばらしいのどが発表されました。

また当日は、コロンビアレコード詩吟コンクールに参加するみなさんの発表とともに、琵琶演奏や居合道の演武が披露され、盛んな拍手が送られました。

「声を出すことが健康につながるということから、最近では女性の会員も多くなってきている」と朝日詩吟愛好会の渡辺藤夫事務局長は話しています。みなさんも一吟いかがですか。

詩吟は正しい姿勢が基本

子供たちの熱演に大きな拍手

四季を彩る舞踊まつりで「自然観」オープンを祝う

●若柳社中が3年ぶりの公演

「芸術の秋」を彩るにふさわしい日本舞踊の、直派若柳流舞踊まつりが十月十四日の夜、農業団地センターホールで開かれました。主催したのは、町芸術文化祭でおなじみの若柳由美代社中と朝日柳香会のみなさんで、チャリティー公演として三年ぶりの開催。

まつりは、「朝日自然観」のオープン祝賀会として開かれたこともあって、若柳由美代さんの祝いの舞いからはじまり、つづいて春夏秋冬のふるさとの四季を表現した唄と踊りで構成。少女たちのかわいい舞いも披露され、会場は華やいだ雰囲気に包まれました。

後半は山形市からかけつけてくれた若柳流の名手、地元長沼出身の若柳由美香さん（山形市在住）をはじめ、門下生ら二十人あまりが美空ひばりのなつかしい曲に乗せた舞踊でステージを彩り、会場につめかけたおおぜいのファンを魅了しました。

小型ポンプ三台 積載車一台を更新配備

消防施設の充実はかる

年々消防施設の整備がはかられていますが、このほど小型動力ポンプ三台、小型動力ポンプ付積載車一台が更新・配備されました。

配備された部は、老朽化した小型ポンプの更新として、九月十八日に三分団一部の大谷と同分団五部の真中と舟渡の各班に計三台。一方、積載車は二分団三部の八ツ沼班に十月二日、小型ポンプに代わって新たに配備されました。積載車はこれで計六台となります。

また、四〇トン級の防火水槽も三基、元町と曲渕それに大舟木に九月二十日に完成。冬場への防火の備えを新たにしました。

3分団5部へのポンプの引渡式

10月29日～11月4日
秋の火災予防運動

おとなりに あげる安心 火の始末

―火の用心 7つのポイント―

①寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。
②子供にマッチやライターで遊ばせない。
③風の強いときは、たき火をしない。
④天ぷら揚げのときはその場をはなれない。
⑤家のまわりに燃えやすいものを置かない。
⑥ふろの空だきをしない。
⑦ストーブに燃えやすいものを近づけない。

男子はベストフレンズ 女子は西部マザーズA が優勝

ナイターバレーボール大会

八月二十五日からリーグ戦で繰り広げられていた第八回ナイターバレーボール大会が、十月十三日に全試合を終了し、男子の部はベストフレンズ（鈴木隆志監督）、女子の部は西部マザーズA（長岡啓一監督）がそれぞれ優勝し、幕を閉じました。

大会には男子の部に三チーム、女子の部に七チームが出場。仕事を終えてからのナイターゲームに、職場や愛好仲間のチームプレーを競い合いました。

二位以下の成績は次のとおりです。男子②アサヒニクニ③町職労／女子②ベストフレンズ③クラブ朝日。

9月1日～9月30日届出

＊おしあわせに

（婚姻届）

松原　大江町　安藤　靖彦♥鈴木　千秋
助ノ巻　山形市　鈴木　俊治♥村岡美保子

＊すこやかに

（出生届）

区	名	出生児氏名	父名
大沼	川西町	白田　幸男♥高橋由美子	下芦沢　上山市　岡崎　淳♥渡邉由美子
太郎一	長岡	儀英（よしひで）	良和
新宿	阿部	香奈（かな）	文彦
常盤	長岡	陽介（ようすけ）	憲夫
四ノ沢	石塚	吏理（りり）	義光
川通	志藤	陽平（ようへい）	一夫
太郎二	長岡	紗希（さき）	義弘
大谷二	堀	裕二朗（ゆうじろう）	和秀

＊やすらかに

（死亡届）

区	名	死亡者氏名	世帯主
大暮山	堀	祐樹（ゆうき）	幸雄
大	滝	恵（めぐみ）	政幸
太郎一	長岡	成美（なるみ）	和彦
四ノ沢	熊谷	八千（やち）	利弘
大暮山	堀	祐樹（ゆうき）	幸雄
大	滝	恵（めぐみ）	政幸
太郎一	長岡	成美（なるみ）	和彦
四ノ沢	熊谷	八千（やち）	利弘

＊人口と世帯数

9月30日現在（対前月）

人口　一〇、八五〇人（三）
男　五、三八八人（三）
女　五、四六二人（〇）
世帯数　二、五九三世帯（〇）

ほやほや新婚さん

松原／安藤靖彦さん　千秋さん

出会いは昨年夏。お互いの友達から「いい人がいるから」と紹介され、「はじめ冗談かと思った」靖彦さんだが第一印象は「とってもかわいい人」。一方、千秋さんも「かっこいい人だなあ」と互いに好印象。職場が同じ左沢とわかり、彼はさっそくダイヤルアタック。それから一年、お互いの心を育んで、この秋一番に恋が実ったさわやかカップル。「かくしごとのない明るい家庭を作ります」。

善意のかご

舞踊まつりよりチャリティー金

十月十四日に開かれた舞踊まつりの主催団体、朝日柳香会（若柳由美代代表）から社会福祉協議会に、チャリティー金七万円をご寄付いただきました。

明るい街づくりに街路灯、八灯寄贈

全国防犯運動期間中の十月十六日、秋のサービス旬間として明るい街づくりに取り組む東北電力株式会社寒河江営業所（泉川芳昭所長）から、設置工事一式を含む街路灯八灯を町にご寄付いただきました。

広報発行の遅れをおわびいたします

皆様よりご愛読いただいております『広報あさひ』の、十月号の発行が事務の都合で遅れ、十月三十一日付で発行、お配りいたします。町報を心待ちになさっている皆様に大変ご迷惑をおかけしました。深くおわびいたします。

せせらぎ

▼暑い夏がいつしか過ぎると、急いで弾けるように飛び出していく秋。その表情は喜んでいるのか悲しんでいるのか解らない。見る人によっては喜んで通り過ぎていくように思えるが、しなければならないことがいっぱい残っている人にとっては、足早やに夕日の彼方に沈んでいく秋に恨む気持ちをおさえきれなくなる。▼「そんなに急ぐこともないのに」と問いかけても振り向いてもくれない秋。いたたまれない自分の心に言い聞かせる。「またすぐに夏は来るさ！」。その時こそ秋の入り口のところで待ち伏せし、「ほんの少しの間だけでいいから待っていて欲しい」と頼んでみよう。▼しかし、その時彼女から「たとえ少しの間だけ待っていても結果はきっと同じよ」という返事が返ってくるだろう。確かにそのとおりだ。急いでいるのは季節という時間の流れではないのだ。（蝸中）

広報あさひ　395号　発行／山形県朝日町　編集／朝日町広報委員会　平成元年10月31日発行　印刷／山形市　豊田太印刷所